

強者の戦略

【紀元前 3000 年代から現代まで】

今回は研伸館の夏期講習や東大スパルタンでもあつかった1999年の「前3世紀から15世紀末のイベリア半島」の問題と同じく、長い歴史をいかにまとめるか、ひたすら長い歴史を要約する能力を問われている問題です。

東京大学はネットワークや世界の一体化、文明の衝突などをテーマとして出しやすい傾向があります。エジプトという地域は、東西を繋ぐ結節点の役割を果たしますので、注意が必要です。例えば、近現代、イギリスはエジプトのスエズ運河をおさえ、そこからインドにむかいます。地中海と紅海・アラビア海にむかう大事な位置にエジプトはあるのです。だから東大はもちろん、阪大のようなネットワークを意識した出題をする大学は絶対に外せない部分だといえます。

なお、東大は、過去の出題をアレンジしたり一部分をきりとり出題したりすることがありますが、この2001年の問題から5年後の2006年には、短文問題でこうしたものが出題されています。

問 ヨーロッパ列強にとって、インドにつらなるルートの重要性が増していくなかで、ヨーロッパとインド洋を結ぶ要衝であるエジプトは、次第に国際政治の焦点となっていった。18世紀末から20世紀中葉にいたるエジプトをめぐる国際関係について、以下の語句のすべてを少なくとも1回用いて、4行以内で説明しなさい。

ナポレオン スエズ運河 ナセル

東大は過去問を隅から隅まで研究しておく必要がありますね。東大スパルタンでは東大の過去問の解法をしっかりやっていきますので、お楽しみに。

《解説》

では解説にはいっていきましょう。

問題文中に「エジプトは…5000年の歴史を営んできた」とあるので、紀元前3000年ごろから存在したといわれるエジプト文明から21世紀の現代まで視野に入れて書く必要があります。これは長いです。

この問題では

・「エジプトに到来した側の関心や、進出にいたった背景」

つまり入ってくる民族や勢力をまず書かないといけないが、背景を多く書きすぎると現代までかけない。背景はほんの一言という感じになるでしょうか。もちろん少しでも触れないとだめですが。

またこれに対してエジプト側の動きとして

・「進出をうけたエジプト側がとった政策や行動」

を視野に入れることになるので、書く分量が相当多いことがわかります。

長い年表を想定して、一覧をつくっていく方法がいいでしょう。

では、箇条書きにポイントをあげてみますので、みなさんはこれらを参考に構想メモをつくってみてください。

強者の戦略

では古代文明から。

- ・「エジプトはナイルのたまもの」の言葉にあるように、ナイル川流域に肥沃な穀倉地帯を誇って文明を形成していた
 - エジプトは豊かだったので、古代からヒクソスや「海の民」、クシュ王国、アッシリアが侵入、前6世紀にはアケメネス朝に支配された。
- ・前4世紀にはアレクサンドロスが征服
- ・帝国分裂後はアレクサンドリアを中心にプトレマイオス朝が支配
- ・前1世紀アクティウムの海戦後はローマ帝国の属州となり、穀物供給源だった。
- ・7世紀以降にイスラム教勢力の支配下になる
- ・ファーティマ朝が入り、以後カイロを中心にインド洋・紅海と地中海を結ぶ中継地として交易で栄えた。
- ・11世紀末、アイユーブ朝を建てたサラディンは西欧からの十字軍を撃退
- ・13世紀マムルーク朝はモンゴル(フラグの勢力)の侵入を撃退
- ・16世紀からはオスマン帝国の支配下
- ・帝国が衰退をはじめると、西欧はアジアへのルートとしてエジプトに注目
- ・ナポレオンはイギリスとインドの連絡を絶つためにエジプトに遠征
- ・この混乱からムハンマド・アリーが自立をはかったが列強の干渉により挫折した。
- ・1869年にはスエズ運河が開通、75年にはイギリスがスエズ運河会社株を買収、ウラービーの反乱を鎮圧して事実上の保護国化
- ・第一次大戦で正式に保護国化
- ・第一次世界大戦戦後ワフド党の運動で独立、しかし運河の権利および駐兵権をイギリスが保持し続けたまま。
- ・第二次大戦後にクーデタで政権をとったナセルがスエズ運河国有化宣言をおこない、英仏・イスラエルが侵入し第二次中東戦争となるが、国際世論の支持で戦争に勝利、国有化を達成した。

さて、これを 540 字にまとめていかななくてはなりません。何を書くか取捨選択が大変になります。内容的にはあまり複雑なものではありません。根気よく考えてまとめていきましょう。

強者の戦略

《解答例》

エジプトはナイル川による高い生産力を誇り文明を形成、そのためヒクソスや「海の民」、前8世紀にはクシュ人やアッシリア、前6世紀にはアケメネス朝に支配された。前4世紀にアレクサンドロスが征服、古代王国は幕を閉じた。帝国分裂後はプトレマイオス朝が支配、前31年にアクティウムの海戦に敗れてローマの属州となり、穀物供給源となった。7世紀以降にイスラム教の支配下となり、10世紀にファーティマ朝が立ち、以後カイロを中心にインド洋・紅海と地中海を結ぶ交易で栄えた。アイユーブ朝を建てたサラディンは十字軍を、マムルーク朝はモンゴルの侵入を撃退した。16世紀にオスマン帝国の支配下となったが、帝国が弱体化すると、西欧はアジアへの中継地として介入した。1798年ナポレオンがイギリスとインドの連絡を絶つために遠征、この混乱でムハンマド・アリーが自立を計り列強に介入された。1869年にスエズ運河が開通、1875年イギリスが運河会社株買収、ウラービーの乱を鎮圧後事実上保護国化、1914年には正式に保護国化された。一次大戦後ワフド党の運動で独立、しかし運河の権利と駐兵権はイギリスが保持した。第二次大戦後ナセル大統領が運河国有化宣言を行い英・仏・イスラエルが侵入、第二次中東戦争となるが、国際世論の支持を受け、勝利して運河を国有化した。(540字)